

とうほうだい 授業だより 【特別編、読んで欲しい詩】

10月30日(水)。読書の秋です。先日、読み込めば読み込むほど心に染み入る、私の尊敬する師が作った詩にあらためて感動しました。みなさんにもぜひ読んで欲しいので、今回紹介させていただきます。

『小さい勇気』

作者 東井 義雄 先生 (元、兵庫県出身 1912年生まれ)

人生の大嵐がやってきたとき / それがへっちゃらで乗りこえられるような 大きい勇気も
ほしいにはほしいが / わたしは / 小さい勇気こそほしい / わたしの大切な仕事を
あとまわしにさせ / 忘れさせようとする小さい悪魔が / テレビのスリルドラマや漫画
に化けて / わたしを誘惑するとき / すぐそれをやっつけられるくらいの / 小さい
勇気でいいから / わたしは それがほしい

もう五分くらいねていたっていいじゃないか、けさは寒いんだよと / あたたかい寝床の中に
ひそみこんで / わたしにささやきかける小さい悪魔を / すぐにやっつけてしまえるくら
いの / 小さい勇気こそほしい / 明日があるじゃないか / 明日やればいいじゃないか
/ 今夜はもう寝ろよ / 机の下からささやきかける小さい悪魔をすぐにやっつけてしまえる
くらいの / 小さい勇気こそほしい / 紙くずがおちているのを見つけたときは / 気が
つかなかったというふりをして / さっさといっちなえよ / かぜひきの鼻紙かもしれない
よ / 不潔じゃないかと呼びかける / 小さい悪魔を / やっつけてしまえるくらいの
/ 小さい勇気こそわたしはほしい / どんな苦難も乗り切れる / 大きい勇気もほしいに
はほしいが / 毎日小出しに使える / 小さい勇気でいいから / それが / わたしは
/ たくさんほしい / それに / そういう小さい勇気を軽視しては / いざとい
うときの / 大きい勇気も / つかめないのではないだろうか

この詩は、作者で、当時、小学校で担任をしていた東井先生が、自分の受け持つ子が、よい悪いを自分で判断できる子になってほしいという思いをもって作られたそうです。私には、子弟の関係をとび越えて人間本来の心も持ち方について説かれているように感じます。自分を振り返り、反省する事ばかりです。